

令和3年度 学力向上指導改善プラン

小野小学校長 木久 整

学校教育目標	心豊かにたくましく 自ら学び 人とつながる 小野っ子の育成	
推進主体	管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		
学力的状況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	・小規模、少人数で、一人ひとりの発表の機会が保障されているが、表現力に課題が残る。少人数学習のよさを活かし、言語力、表現力の育成を目指す。 ・漢字、作文など書くことを苦手とする児童が多い。漢字の読み書き、理由や根拠を示し筋道立てて文章を書く力の伸長を図る。 ・自力解決の取り組み、問題解決に向けた話し合い等、算数における表現力を伸ばしている。 ・図や表を活用して発表すること、正確に情報を読み取ったり、資料を使って説明したりすることに課題がある。基礎基本の定着、計算力の向上を図るとともに、さらに自力解決に取り組み、自分の考えを説明する力を伸ばしていく。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	・単元テストで漢字・計算などの定着度を評価し指導に役立てている。 ・学力テストの結果を活かした個別の指導や学力差に応じた支援の工夫が必要である。 ・プリントやドリルを利用して、繰り返し練習問題等に取り組むことで一定の力をつけている。
	授業等からうかがえる状況(各教科)	・学習課題に粘り強く取り組む力がついてきたが、長文や応用問題に対しては最初からあきらめてしまふ傾向がある。 ・児童・保護者アンケートからは、授業中の発表や発言など、表現力について肯定的評価が高まってきており、取組を継続していく。
学力向上に慣れる等の学習状況・生活	学校評価などのアンケート調査やこれまでの全国学力・学習状況調査の質問紙の経年変化による児童・生徒の状況	・朝食、起床時刻、睡眠時間、家庭学習といった生活習慣は、定着が図られてきている。 ・安定した学校生活と家庭生活習慣に相関関係があり、就寝時刻、ゲームなどの家庭での過ごし方も含めた生活の改善、習慣化を図り、好循環を生むように取り組んでいる。 ・「家庭学習の手引き」の活用が進んでいないこと、家庭学習の取り組みについて各家庭の差があること、高学年の就寝時刻が遅くなっていること、読書習慣がない児童がいること等の課題が見られる。
	校内研究・研修の状況	・「主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子の育成」をテーマとし、算数科に焦点をあてた研究を進めてきた。 ・算数科の研究で焦点化しているガイド学習について、発達段階に応じた支援の具体などを明確にし、さらに定着を図っていく。
家庭・地域等の状況	家庭・地域等の状況	・保護者や地域の本校に対する支援、協体制ができており、さらに通学路の安全、挨拶運動、家庭学習の習慣作り等の取組を進めている。 ・三田市の「学校のあり方協議会」の方針等もふまえながら、学校と地域の協働体制をさらに構築していく。
	小・中における教科連携等の状況	・授業参観や連絡会も含め、中学校下において子どもたちの実態、課題、身につけさせたい力等の共通理解を図っている。 ・連携担当者会や長期休業中の小中合同研修の実施等を今後も継続し、連携を推進していく。

4月		2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価
	(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
・フリートークを中心とした授業展開を工夫して、児童の主体的な学びによる学習を構築していく。 ・「話す」「書く」ことを積極的に取り入れ、自分の考えを持ち、友達の意見と似ているところや違うところを比べながら聞いて、質問や付け足しをして話し合いなどの言語活動によって理解を深める授業を展開する。 ・自分の考えをノートや黒板に書いて発表したり、図や表を使って説明したりする活動を通して考えを深める。 ・友達との話し合いを通して学習意欲を高め、主体的に学ぶことができるような授業を展開する。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・自ら問いを持ち、課題解決に向けての話し合いの中で、考えたことを相手や目的、意図に応じて話したり、理由や根拠を説明したりすることで主体的に学ぼうとする態度を育て、必要な能力を高める。 ・漢字の読み書きについて毎日のドリル学習を通して定着を図り、単元テスト、プリント等で評価し、指導に活用する。学習のふりかえり、日記指導等を通して書く機会を取り入れる。 ・題意把握、自力解決、集団解決において数図ブロックやお金(模型)など具体物や半具体物、絵や図などを活用し、理解を深める。 ・計算について学校と家庭での学習を継続し、毎日の家庭学習を通して計算力の向上を目指す。	・全体では、全国・県平均とほぼ同程度の正答率であった。 ・文章を読んで話し合い、考えを深めるためのフリートークを中心とした展開を取り入れるなど、授業改善に取り組んでいる成果が表れてきた。 ・思考力、判断力、表現力等において正答率が高く、とくに、「読むこと」の領域、「話すこと・聞くこと」の領域で、5ポイント以上、全国平均を上回った。 ・「数と計算」、「図形」、「測定」のそれぞれの領域で、全国平均を7ポイント以上、上回った。また、「思考・判断・表現」の観点において全国平均を8.7ポイント上回り、とくに記述式の問題で17.8ポイント上回るなど、数学的思考の深まりが見られた。 ・「書くこと」において、全国平均を19ポイント下回り、課題がある。 ・領域では「変化と関係」「データの利用」、観点別では「知識・技能」において、全国平均を下回り、課題が見られる。
・個別の学力差に対応できるように、個別支援や学習環境の工夫を進め、児童一人ひとりに対応した学習支援を行っていく。 ・テストやプリントによる評価を活用し、基礎的な学習の定着を図ることで、すべての児童が学ぶ喜びを感じる授業づくりを進める。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取っていく。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、その結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・プリントやドリルを活用し、朝学習や授業始めに取り組むとともに、家庭と連絡を取って個別の補充学習ができるようにする。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、その結果を授業改善、個別支援に活かすことができた。 ・プリントやドリルを活用し、朝学習や授業始めに取り組んだ。 ・今後も、家庭と連絡を取って個別の補充学習ができるように配慮していく必要がある。
・児童が主体的に学び、一人ひとりの能力が発揮できるよう、さらに授業改善を進める。 ・落ち着いた学習できる環境づくりとともに、児童が取組を通して達成感や充実感を味わうことができるような授業展開を工夫し、学習意欲を高める。	・学力テストの質問紙、学校評価の児童アンケートの結果で昨年度を上回る。	・児童が主体的に学ぶ学習を展開し、学習の「めあて」と「ふりかえり」を運動させ、児童が自ら学習に向かい、自分自身の学びや成長を実感できる授業の工夫、改善を進める。 ・学級づくりを基盤として授業規律を確立し、児童一人ひとりに必要な支援を取り入れ、どの子も学習に意欲的に参加できるよう学習環境を整える。	・児童が問題場面から解決の見通しを持ち、問題解決の過程を発表し、伝え合うなどして気付いたり、工夫したりすることのよさを実感したりする活動を大切に授業づくりを進め、その成果が表れてきていると考える。
・より良い基本的生活習慣の定着に努め、「早寝、早起き、朝ごはん」や家庭学習の習慣など、家庭での過ごし方も含めた生活の改善を進める。 ・基本的生活習慣の定着や家庭での学習習慣の確立を図り、学校から情報を発信する。 ・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示し、家庭学習の充実、読書習慣作り等に取り組んでいけるよう家庭と連携していく。	・基本的生活習慣の定着の重要性を保護者に発信し、家庭と協力して、学習習慣の定着を図り、全国学力・学習状況調査、学校評価アンケートによる評価の向上を目指す。	・主体的な学び、課題解決学習、話し合いや協働する活動を通じて考えを深め、自ら学ぼうとする態度を培うことで、学習習慣の定着と充実を目指した継続した指導を行う。 ・学校司書と連携して図書室の利用を活性化し、国語科と連携した音読カードによる家庭学習を毎日の習慣とする、隙間時間を利用した読書タイムを設定する等、読むことの基礎となる力の向上、読書習慣の定着を図る。 ・学校だより、保健だより、学年通信、家庭訪問、個人懇談などでの情報発信を継続し、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の有効活用を呼びかけて、毎日の音読カードやドリル学習を活用した取り組みなど各家庭と連携した家庭学習の習慣化につなげていく。	・学校評価アンケートや全国学力・学習状況調査の質問紙の状況から、「生活習慣・学習習慣」、「規範意識」については概ね良好である。 ・「勉強は大切だと思う」については80%以上の児童が大切だと答えているが、「学習に対する興味・関心」については、どちらかと言えば低いことが課題である。
・今年度も「主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子の育成」をテーマとし、国語を中心にフリートークによる学習展開を導入して、児童が主体的に学習に取り組む学習の研究を深めていく。 ・算数科においては、ねらいを明確にし、児童の主体的な学びにつながるガイド学習の研究を進める。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果を取り入れ、研究目標の成果を数値の向上で見取る。	・一人一授業公開を原則として授業研究に取り組む、事前研・事後研を通して授業の改善、支援の方法などの共有化を図る。 ・研究テーマに沿って、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。	・フリートークを中心とした展開を取り入れ、授業改善に取り組んだ成果が表れてきている。 ・さらに、目的や意図に応じて、文章や図表のどの部分に着目すればいいのか、また、どのような説明を加えると内容を分かりやすく伝えることができるのかを工夫することで、表現力を高める活動に生かしていけるようにしたい。
・学力向上に向けての研修と生活指導、特別支援等についての研修を効果的に組み合わせる研修を行う。 ・PDCAサイクルを全職員で共有し、学期ごとの取り組みの検証、検討を進める。	・年間の研修の回数、具体的な内容を設定し、達成に向け組織的、計画的に進める。	・教育計画を中心に評価・共通理解を進めながら、ガイド学習、児童理解等について研修を行い、今日的課題に対応すべく取組を進める。 ・研修の場、回数の設定に限られる中で、必要な研修を工夫して行っていく必要がある。	・ガイド学習を取り入れ、児童が問題場面から解決の見通しを持ち、問題解決の過程を発表したり、伝え合ったりする活動を大切に授業づくりの成果と考える。 ・来年度も、学力向上に向けての研修と生活指導、特別支援等についての研修を効果的に組み合わせる研修を行っていく。
・「開かれた学校づくり」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。 ・学校から家庭、地域への情報提供、児童の学習、活動の様子を発信し、学校教育への理解を図る。	・保護者参観、地域参加の学校行事等を年間行事に位置付けて設定し、学校だより、学年通信、学校メール等で定期的に学校から情報を発信する。	・学校地域運営協議会を中心として学校関係者(区長、地域の関係者・組織等)と考えを共有し、連携した取組を進める。 ・保護者、地域による参観、学校行事への参加、各教科や総合的な学習の時間における地域人材の活用等を積極的に進める。	・学校だより、学年通信、学校メール等で情報を発信し、学校から家庭、地域への情報提供、児童の学習、活動の様子を伝え、学校教育への理解を図ることができた。 ・コロナ禍で、保護者参観、地域参加の学校行事等、設定した年間行事の回数や規模が縮小し、保護者、地域との連携を深めることが十分にできていない。
・これまでの四校交流の取り組みを継続する。 ・共通した学習習慣、学習規律の策定等に向けた小中学校間の連携を深める。	・交流会、連絡会、担当者会等の定期的な開催をめざす。	・中学校と校下の小学校4校で相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、小中連携の内容をより深める。 ・各校との交流、合同での行事開催を通して職員児童の児童生徒理解、教育課題の共有を図る。	・幼小中学校園合同研修会を通して、学習指導やキャリア教育等について幼稚園から中学校の10年間を見通した指導について職員間の気共通理解を計ることができた。 ・家庭学習の習慣付けについて、小中で連携を進めていく。

評価

B

B

A

B

A

B

B